国語問題

【平成31年度入学試験】

【平成30年10月7日実施】

一　次の文章を読んで後の問に答えよ。

読書をすること、あるいは学問をすることの意味とは何なのだろうか。一般には、これまで知らなかった知識を得ることという答えが返ってきそうだが、読書の〈意味〉、学問の〈意味〉というものを考えたとき、その答えだけでは十分ではないだろうと私は考えている。

読書によって、あるいは学ぶということによって、確かに新しい知識が自分のものとなる。しかし読書や学問をすることの〈意味〉は、端的に言って、自分がそれまで何も知らない存在であったことを初めて知る、そこに〈意味〉があるのだと思う。ある知識を得ることは、そんな知識も持っていなかった〈私〉を新たに発見することなのだ。

私一人の身体のなかに地球15周分もの細胞が詰まっていると知ることは、そんなにすごい存在だったのかと感動することは、そんなことも知らない自分であったということを、改めて知ることからくる感動なのだ。初めから何でも知っていたら、感動などは生まれない。①「知らない存在としての自分を知る」こと、学問はそこから出発する。

自分の知っていることは世界のほんの一部にしか過ぎないのだと自覚する、それはすなわち自分という存在の相対化ということである。それを自覚しないあいだは、自分が絶対だと思いがちである。自分だけしか見えていない。世界は自分のために回っているような錯覚を持つ。

自分は〈まだ〉何も知らない存在なのだと知ることによって、相手と自分との関係も見えてくるだろうし、世界のなかでの自分が存在することの意味も考えることになるだろう。私は〈まだ〉何も知らないと自覚することは、いまから世界を見ることができるということでもある。②それが学問のモチベーションになり、駆動力になる。

「何も知らない自分」を知らないで、ただ日常を普通に生きていることに満足、充足しているところからは、敢えてしんどい作業を伴う学問、研究などへの興味もモチベーションも生まれないのは当然である。しかし、ああ、自分は実は世界のほんのちっぽけな一部しかこれまで見てこなかった、知っていなかったと実感できれば、そして自分がこれまで知らなかった世界がいかに驚異に満ち、知る喜びにあふれていることを垣間見ることができれば、おのずから③知ることに対する敬意、リスペクトの思いにつながるはずである。

こんなちっぽけな私の身体のなかには、地球15周分もの細胞が詰まっているのだという驚きと感動、その驚きは必ず自分という存在を見る目に変更を迫るはずである。自分という存在を尊厳の思いとともに見ることのできる基盤ができることでもあるが、いっぽうで、このまま何も知らずに人生を漫然と送っていては、こんな喜びに出会えないだけでも大きな損だろうと思えれば、④シメタものである。

わが家に小さな子どもがやってきた。まだ一歳にもならない女の子である。世の中では孫と呼ぶらしいが、それが可愛いのである。

見ているといくつも発見がある。自分の子のときには見えていなかったことばかりである。彼女は世界の中心にいる。天動説のようなもので、自分では何もしなくても、すべてが彼女のまわりをまわっている。世界を所有し、世界は包んではくれても、対峙することはない。

保育園や幼稚園に行くようになって、同じような年齢層の〈A〉に初めて出会うことになる。ここで〈B〉を知ることが、すなわち自分という存在を意識する最初の経験となるのだろう。世界は自分のためだけにまわっているのではないことを初めて知る。〈C〉を知ることによって初めて〈D〉というもの〈の意識が芽生える。「自我のめばえ」は、〈E〉によって意識される〈F〉〈の視線である。自分を外から見るという経験、これはすなわち学ぶということの最初の経験なのである。

先に述べたように、読書をするということは、「こんなことも知らなかった自分」を発見すること、すなわち⑤自分を客観的に眺めることである。〈自己〉の相対化であると言ってもいい。

こんなことを考えている人がいたのかと思う。こんなひたすらな愛があったのか、こんな辛い別れがあるのかと、小説に涙ぐむ。それらは「読む」という行為の以前には、知らなかった世界ばかりである。それを知るということは、す

なわち「それを知らなかった自分」を知るということである。一冊の書物を読めば、その分、自分を見る新しい視線が自分のなかに生まれる。〈自己〉の相対化とはそういうことである。

勉強をするのは、そのためである。読書にしても、勉強にしても、それは知識を広げるということも確かにその通りだが、もっと大切なことは、自分を客観的に眺めるための、新しい場所を獲得するという意味のほうが大きい。小さな子が他者と出会って初めて自分に気づいたように、私たちは〈自己〉をいろいろな角度から見るための、複数の視線を得るために、勉強をし、読書をする。それを欠くと、ひとりよがりの自分を抜け出すことができない。〈他者〉との関係性を築くことができない。

勉強や読書は、自分では持ち得ない〈他の時間〉を持つということでもある。過去の多くの時間に出会うということでもある。過去の時間を所有する、それもまた、自分だけでは持ちえなかった自分への視線を得ることでもあるだろう。そんな風にして、それぞれの個人は世界と向き合うための基盤を作ってゆく。

永田和宏『知の体力』による

問一　傍線部①「知らない存在としての自分を知る」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。　解答番号1

① 周りのことも知らず、様々な知識もない状態で日常生活をしていた自分の視野の狭さを自覚するということ。
② 読書の意味や、学問の意味も知らずに教養のない生活をしていた自分の視野の狭さを自覚するということ。
③ 身体に地球15周分もの細胞が詰まっていることを知らないので、自分の命の重さを自覚しないということ。
④ 自分は何も知らない存在のために、自分が絶対で、世界は自分中心に回っているような錯覚を持つということ。

問二　傍線部②「それが学問のモチベーションになり、駆動力になる」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。　解答番号2

① 相手と自分との関係が明確になることで、困難な作業を伴う学問への原動力となる。
② 世界のなかでの自分の存在意義を考え続けることが学問を進めていく原動力になる。
③ 読書の意味や学問の意味を考えることが将来の科学技術を進めていく原動力になる。
④ 自分はまだ知らないと自覚すると、もっと知りたいと思い、学究への意欲の源となる。

問三　傍線部③「知ることに対する敬意」とはどういうことかの説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。　解答番号3

① 自己中心的な世界観から広い世界観に考え方が変わったことで、地動説を唱えた科学視野の偉大さに感動したということ。
② 自分は世界のほんの一部しか知っていなかったと実感することによって、学問の権威者に対する憧れと畏れを抱くということ。
③ 自分の身体のなかに地球15周分もの細胞があることを知った驚きと感動を得たことによって、命の重みを自覚したということ。
④ 周囲の世界の広さや深さに驚異を感じ、己の卑小さや無知を自覚することによって、知に対して畏敬の念を抱くということ。

問四　傍線部④の「シメタものである」にこめられた筆者の思いとして最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。　解答番号4

① 周囲に配慮しない自己中心的な人こそが敢えて困難な作業を伴う学問、研究などへの熱い意欲を抱いて社会の役に立つという思い。
② 自然や自己に対する驚異から、物事を知ろうと思うことで学問への意欲につながり、筆者の期待通りになるという思い。

③ 読書をしないでものを知る喜びに出会えないのは大きな損だと生徒に思われたら、学校の計略通りだという思い。

④ 自分の存在を尊厳の思いで見ることのできる基盤ができると他者をも尊重して、人間関係の構築が安心だという思い。

問五 〈A〉～〈F〉に「自己」または「他者」を適切に入れ、記号で答えよ。「自己」を①とし、「他者」を②とすること。

解答番号A[5]、B[6]、C[7]、D[8]、E[9]、F[10]

問六 傍線部⑤に「自分を客観的に眺める」とあるが、その必要性の説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

解答番号[11]

① 自分を客観的にとらえ直すと自分の長所が明確に自覚され、他者との関係性を築く時に自信を持って振る舞うようになるから。

② 自分を客観的に眺めると自分だけでは持ち得ない他の時間を持つようになり、科学的に考えることができるようになるから。

③ 自分を客観的にとらえることによって独善から脱し、他者との円満な関係を築くことができ、社会で快く生活することができるから。

④ 自分自身を客観的にとらえることのできる人は、自分の欠点がわかるため謙虚になり、人間として一回り大きくなるから。

二 次の文章を読んで後の問に答えよ。

現在の世界で、民主主義というのは一種の①錦の御旗であろう。民主的でないという②烙印が押されてしまうと、「悪者」にされてしまったのと同様で、社会的地位を失うことにさえつながってくる。

そもそも民主主義とは何かなどという堅い話ではなく、日本の民主主義ということについて少し考えてみたい。日本的民主主義なんてあるのかと言われそうだが、日本で民主主義と呼んでいることは、欧米のそれと比較すると、かなり特殊なものである、という自覚がいるようである。

ある日本の高校教師が「民主主義教育」の実状を知るために、招かれて米国の高校に行った。彼の率直な感想は、「アメリカの高校はまったく民主的でない」ということであった。彼が一番驚いたのは、学校行事に関する決定の仕方であった。ほとんどのことは校長が決めてしまい、それを職員会議の前に文書で教員に配布する。会議のときに異議が無ければ、それできまってしまう。これには彼は呆れてしまった。「校長による権力主義的独裁」と彼は考えたのである。

これが日本の高校で行なわれるとどうなるだろう。体育祭ひとつを例に取ってみても、一応の案は執行部から（校長からではない）出されるにしろ、その細部にわたって討論されて、相当な時間をとることになろう。時には、「そもそも高校において体育祭を行なうことに意義があるか」という点についてながながと「講義」をする人もある。多くの人がそれについてほとんど聞いていないか、無関心なのだが、司会者が発言をとめることは、まずないだろう。結局のところは、最初の案とほとんど変わりのないものに落ち着くのだが、それに費やされる時間は相当なものである。会議が終ってから、ほとんどの人が「会議が長びく」ことを嘆くのだが、それを次から短縮するために何らかの方法が考え出されることは、まずないのである。もしここで、アメリカ帰りの教師が居て、アメリカの方法を導入しては、などと提案したら、③「そんな非民主的な方法は駄目だ」と④一喝されるだろう。

欧米の民主主義は個人主義の確立を前提に成立っている。アメリカの高校は非民主的でも権力主義でもなく、校長の提案に対して、すべての教員がそれに異議をとなえる権利を持っている、という意味で民主的なのだ。もし異議のある人は、校長案に対して対案を出し、それは全員で討議され、全員の意志でどちらかに決定されるだろう。「争点」が明確にされ、それについて論じられる。

これに比して、日本の場合は、多くの発言者は、「こんな場合はどうだろう」とか「こんなことも考えているか」などと、細部にわたって疑問を提出するが、「争点」は不明確で、「対案」をもつていないことが多い。

日本的民主主義にもいいところは沢山ある。それは簡単に言ってしまえば、⑤西洋近代の個人主義の裏がえしのようなもので、集団の全体としてのバランスを保ち、全員がうまく参加してきて、「役割」を超えたはたらきをするなど、数えたてるといくらでも言えるだろう。⑥戦後の日本の復興を支えたひとつの柱と言っていいだろう。しかしここで、強調したいのは、⑦このような方法が、「創造性の芽をつむ」という著しい欠点をもつことを、そろそろ日本人全体が自覚する必要がある、ということである。全体のバランスということと、創造性ということは、特にその出発点において相容れないものをもっている。創造性とは全体のバランスを壊すことである。もちろん、それが洗練されてゆくうちには、新しい全体のバランスに到達することにもなろうが、何と言っても、最初のところは、個人のうちに生まれてきた、やむにやまれぬひとつの動きとしてそれは現れてくるし、言ってみれば、それはゴツゴツとして、あちこちにぶっつかるものである。

こんなわけで、創造的なものが生まれてくるときは周囲の者は苦労することが多い。しかし、「個人」に対する信頼感と、各個人も個々の人生を生きているという事実によって、欧米においては「創造性」を育てる土壌ができている。それに対して、日本の民主主義は、全体のバランスの維持に心が向きすぎて、ゴツゴツした創造性を早くから「丸く収めよう」とし過ぎるために、その芽をつんでしまうのである。

河合隼雄『心の処方箋』による

問一　傍線部①、②、④の言葉の意味として最も適当なものをそれぞれ次の①、②、④の中から一つ選んで記号で答えよ。　解答番号 ①12、②13、④14

①　錦の御旗
①至極当然の常識　②最も高潔な精神　③自分の言動に権威をつける名分　④日本独自の政治体制

②　烙印が押されてしまう
①取り返しのつかない過失をおかす　②風評被害がでてしまう　③消すに消せない汚名を受ける　④根拠のない中傷を受ける

④　一喝される
①大声でしかられる　②一度に全体をまとめられる　③みんなに反対される。　④意見を葬られる

問二　傍線部③に「そんな非民主的な方法」とあるが、どういう点が非民主的に見えるのかの説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。　解答番号15

①　校長が権力主義的独裁をして職員の意見を聞き入れない点
②　みんなの意見を全体の会議の場でいちいち話し合わない点
③　会議の資料だけが配付されるだけで会議が開かれない点
④　個人主義の確立されていない者からの意見を聞かない点

問三　傍線部⑤「西洋近代の個人主義の裏がえしのようなもの」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。　解答番号16

①　自由や平等や民主主義を重要視するが、やむにやまれぬ場合は有無を言わせないで強権を使う。
②　自由や平等や民主主義は名目だけで、内実は権力を維持するために民衆を弾圧や監視の社会を作る。
③　目的に向かって全員でやることを重要視するため、互いの意見を尊重し、個人の主体性を認め合う。
④　個人の自由や平等や権利を尊重するのではなくむしろ個の主張を押さえて他者との協調を優先する。

問四　傍線部⑥「戦後の日本の復興を支えたひとつの柱」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。　解答番号17

①　自分の権利や義務を行使するだけでなく、他人の領域まで手伝う助け合いや奉仕の精神が、敗戦後の混乱や貧困から日本を蘇らせる大きな力となった。
②　敗戦後、欧米からもたらされた個人主義の意識が、個人の利益追求の意欲を生み出し、それが労働意欲を向

上させて高度経済成長の礎となった。

③ 敗戦後の貧困から解放されるために、外国の思惑や労働基準法などにこだわることなく、日本人全員ががむしゃらに働き経済大国になった。

④ 個人の主張や利害得失を考えず、戦争遂行のために尽くしてきた戦時中までの精神が戦後までも生き残り、日本全体の経済成長をもたらした。

問五 傍線部⑦に「このような方法が、創造性の芽をつむ」とあるが、その理由として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。 解答番号 18

① 全体のバランスを重視して全員がうまく参加して物事を達成する社会では、強い個性や独創性を持つ人にみんなが頼るから。

② 組織のメンバー全員がうまく参加してきて、「役割」を超えたはたらきをすると、つい自分の領分を怠けるようになるから。

③ 全体のバランスを壊すような強烈な創造性は、日本の社会ではどちらかというと異端者として排除される傾向にあるから。

④ ゴツゴツした創造性を持つ人は、個人を尊重する社会では多くの人々と協調できず、円満な人間関係を築けないから。

問六 筆者の言う日本の民主主義をことわざや慣用句で表現したものとして最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。 解答番号 19

① 和を以て尊しと為す ② 長い物には巻かれろ ③ 寄らば大樹の陰 ④ 犬猿の仲

三

次の傍線部の言葉の意味として最も適当なものをそれぞれ後の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

A 芸術の完成にいそしんでいる。 解答番号 20

【①興味を持っている ②向かっている ③注目している ④励んでいる】

B 忙しさにかまけて身体の変調に気づかない。 解答番号 21

【①うんざりして ②心をとられて ③言い訳にして ④慣れきって】

C 機先を制して敵陣を攻める。 解答番号 22

【①先のことを考えて ②先手を打って ③卑怯な手を使って ④後先考えずに】

D 殿様の歓心を買う家来。 解答番号 23

【①気に入られるように機嫌を取る ②関心を示すように配慮する
③賛同を得られるように気を遣う ④感心してもらうように創意工夫する】

E 戦時体制に迎合した作家。 解答番号 24

【①異議を唱えた ②利用された ③風潮に調子をあわせた ④振り回された】

四

次のことわざ・慣用句の意味として最も適当なものをそれぞれ後の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

A 鼻を明かす 解答番号 25

① おどけてみせる ② 秘密を暴露する
③ 悪人を懲らしめる ④ 出し抜いて驚かせる

B へそで茶を沸かす　解答番号 26
①おかしくてたまらないこと　②不可能なこと
③不衛生なこと　④危険なこと

C 尻をまくる　解答番号 27
①腹を立ててけんか腰になる　②無礼な振る舞い
③足もとが悪い　④貧困に耐える

D 口が酸っぱくなる　解答番号 28
①叱責を受ける　②まずいものを食わされる
③繰り返して言う　④酒を飲み過ぎる

E 足を洗う　解答番号 29
①親切にする　②悪い仕事から離れる
③宿屋に泊まる　④新しい服を着る

五

次の各文に該当する人物をそれぞれ後の人物群から選んで記号で答えよ。

A 慶應義塾の創始者で『学問のすゝめ』の著者　解答番号 30
B 我が国最初の文学理論を『小説神髄』で著した人物　解答番号 31
C 未完の大作『金色夜叉』の著者　解答番号 32
D 大工職人の一途な思いが貫かれた小説『五重塔』の著者　解答番号 33
E 安楽死の問題を小説『高瀬舟』で著しだ人物　解答番号 34
F『三四郎』『それから』『門』の三部作の著者　解答番号 35
G 芥川龍之介の親友で、芥川賞・直木賞という文学賞を設けた人物　解答番号 36

人物群　①石川啄木　②森鷗外　③幸田露伴　④菊池寛　⑤福沢諭吉
⑥尾崎紅葉　⑦坪内逍遙　⑧夏目漱石　⑨樋口一葉

六

次のa～jの□の中に入る適切な漢字を下からそれぞれ記号で選んで四字熟語として完成させよ。
解答番号は a 37、b 38、c 39、d 40、e 41、f 42、g 43、h 44、i 45、j 46

a 文□墨客（風流人のこと）　【①人　②壇　③化　④筆】
b 自画自□（自分が描いた絵を自ら誉めること）　【①賛　②産　③燦　④散】
c 我田□水（自分の都合のいいような言動をすること）　【①給　②山　③引　④増】
d 悪戦苦□（困難に打ち勝とうとがんばること）　【①闘　②悩　③労　④悶】
e 傍□無人（他人を無視して自分勝手に振る舞うこと）　【①観　②人　③年　④若】
f 清□潔白（心が清く、うしろ暗いことがないこと）　【①浄　②明　③廉　④風】
g 言語道□（もってのほかで、言葉にもできないこと）　【①標　②中　③断　④路】
h 和洋□衷（日本風と西洋風を程よく混ぜること）　【①半　②折　③合　④中】
i 五□夢中（見通しや方針が全く立たないこと）　【①山　②里　③体　④穀】
j 山紫水□（自然の風景が清らかで美しいこと）　【①澄　②青　③碧　④明】

七

次のA～Eの対義語として最も適当なものを後の①～⑨の中からそれぞれ一つ選んで記号で答えよ。
解答番号は A 47、B 48、C 49、D 50、E 51

A 老練　B 繁忙　C 釈放　D 大胆　E 中枢

①若輩　②小心　③閑居　④末梢　⑤不敵　⑥閑散　⑦拘禁　⑧逃亡　⑨幼稚